札親会だより

第54号
平成 30 年 3 月10日発行
発行者:社会福祉法人 札親会
理事長 室田 昌幸
編集者 札親会本部

～最近の動きから～

理事長　室田　昌幸

札幌の雪まつり、ピョンチャンの冬のオリンピックも終わり３月９日からは冬のパラリンピックが行われます。

４月からの新年度を迎える時期に入り、札幌市は街づくりの計画に大きな課題をかかえています。

ひとつはＪＲ新幹線の札幌駅のホームをどこにつくるかという課題で、今の駅校内にするのか、それとも創成川をまたいで駅の東側につくるのかと結論を迫られています。

ふたつめは、日本ハムの新球場を札幌市の真駒内につくるのかそれとも北広島市につくるのかという課題でこれも結論を出す時期が迫っており、市民の関心を集めています。

さて、わが札親会も設立して今年で３２年。札幌市と月形町に施設があり、グループホームなど年々数が増えて現在、利用者は約５００人。施設職員は約３００人に増えました。少子高齢化の時代で就職希望者は年々減ってきましたが幸い今年の４月には中途採用者を含め約２５人の新人を札親会に迎えることが出来ました。

この機会に札親会では、就業規則を全面改正します。これは、各施設の事業所の労働時間のバラつきをなくしてチームワークでより働きやすい環境を整えるためで、職員間の人事異動も円滑に行う予定です。又、定年後の再雇用、育児介護休業も就業規則に新たに盛り込んでおります。

尚、札親会統括施設長の中原明さんは、４月から札幌市の知的障害者施設の団体、札幌市知的障がい者福祉協会の会長に就任します。

この世の中何が起こるかわかりません。１月３１日の深夜、札幌東区の共同住宅で火事があり、入居者１１人がお亡くなりになりました。出火原因はまだわかっていませんが、札親会の各施設でも絶対に火事を起こさぬよう万全の注意をお願い致します。

「そしあるハイム」の火災事故で思うこと

２月１日の朝、建物が真っ赤な炎にのみ込まれる映像が、繰り返し放送されるテレビのニュースに大きな衝撃を受けました。前日の深夜、東区にある生活困窮者の支援を目的とした「そしあるハイム」で、入居者１６名中、１１名が犠牲となる悲惨な火災事故が発生しました。

「合同会社なんもさサポート」が運営する「そしあるハイム」の実態は詳しくは分かりませんがそこで暮らしている生活弱者のかた達、高齢福祉サービスや障がい福祉サービスにはつながりづらい方達が、「そしあるハイム」でスタッフの支えや入居者同士、地域の方の支え合いにより暮らしていたのではと推察しています。

今回の「そしあるハイム」は福祉施設ではなく、単なる下宿・アパート・共同住宅としてみなされるため、消防法は適用されず、スプリンクラー設備や自動火災報知設備などの消防設備の設置義務もありません。

今回の火災事故を契機に、札幌市でもこうした多様なかた達が「暮らす場」の実態の把握に動き出しており、防火対策の強化を求めてくることも予想されます。

公的な支援が届かないところに防火設備の強化を求めることは、公的な制度の枠外で事業を行なっている事業者にとって防火設備を独自に充実させていくことは費用の面からは難しく、経済的な負担を回避するために「事業」からの撤退をするケースも出てくるかもしれません。その場合、そこで暮らす人達が福祉サービスや生活弱者を支援するネットからも外れていくのではと気になります。今後は、生活弱者を支える新たなシステムも必要になってくるのではないでしょうか。もちろん、安心・安全な暮らしの提供は、事業者として最低限求められることです。これまでも、このような火災事故が起きるたびに、グループホームに対しては消防法の基準が強化されてきました。

平成３０年４月１日からの消防法の一部改正によって面積に拘らず自動火災報知設備の設置が義務付けられ、法人内のグループホーでも５ヶ所で新しく設置を致しました。元来、「グループホーム」は、「地域で」より家庭に近い雰囲気の中で普通に暮らすことを目的として平成元年に始まった制度です。事業が始まって３０年が経過し、当初に掲げられた「普通の暮らし」が、消防法とのハザマの中で、ミニ施設化してきている傾向を感じたりもしています。

現在、既存の建物を活用してグループホームの事業を始めることは、消防法との整合性からも困難になってきており、新規のグループホームの開設が進まなくなっていることの理由のひとつにもなっています。

札親会では、現在、市内で１４カ所、月形町で４ヶ所と合わせて１８カ所で１３７名が暮らす事業を行なっています。

地域で普通の暮らしを支えていくとの想いでスタートした事業です。

本人達が望んでいる暮らしが提供できているのか、否なのか。絶えず問い返しながら、より良い暮らしの支援が提供できるよう心がけていきたいと思います。

（事務局：中原明）

冬に鮮やかな花を咲かせるシクラメン

つきがた友朋の丘

つきがた友朋の丘でシクラメン栽培をはじめたのは４年前。当初、温室の有効利用した活動を探していました。そこへ岩見沢市にある農業高校でシクラメンを栽培していると聞き、さっそく先生に会いに行きました。施設での活動等説明しましたところ、栽培方法を丁寧に教えていただくことが出来ました。早速その年の１２月に種を蒔き１年かけて育てました。しかし、管理も不十分なことからなかなかうまく育たず、売り物になるのも少なかったのですが、毎年栽培方法を見直し、農業高校からもご指導をいただきながら４年目の今年は、種を６００程蒔き、３００鉢ほど花を咲かせることが出来、そのほとんどを販売することが出来ました。丁寧に育てると、葉の数だけ花を咲かせるシクラメン。

今年も利用者さんと支援者が汗を流しながら１年かけて育て、冬には鮮やかな花を咲かせることでしょう。

施設長　　田邊　　寛

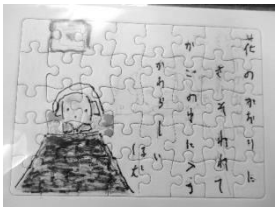
「合同つばさ会」アート作品制作中

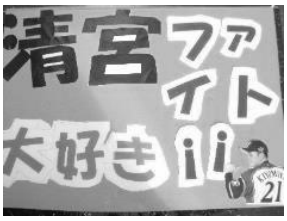
菊水ワークセンター

菊水ワークセンターの利用者さんたちの「合同つばさ会」が２月３日（土）に開催されました。今年の企画は、“世界に一つだけのもの”と称して、各自が興味のあるアート制作です。アクセサリー、ペーパークラフト、オリジナルジグソー、応援グッズ、エコクラフト、紙粘土細工の６つのコースに分かれて取組みました。

どれも個性的で素敵な作品に仕上がりました。発表会では、各コースの代表者が出来上がった作品を手に感想を伝えてくれました。「楽しかった。」「また、やりたいね、」との皆さんの感想に一緒にお手伝いした職員も安堵です。作品を大事に活用してくれたら嬉しいですね。活動風景の様子をご覧ください。　　施設長　　菅　雅嗣

思い思いに心をこめて!





「花の里ゆきまつり」大盛況!!

月形町認定こども園花の里こども園

今年の月形町の降雪量はとても多いです。大人は毎日雪かきに追われ、それでも降り続く雪を見て、恨めしく思っていますが、子どもたちにとっては、この季節しかできない、そして雪が降る地域でしかできない貴重なあそびの宝庫です。そこで、今年も「花の里ゆきまつり」を開催しました。先生に引っ張ってもらうそりリレー、駐車場の除雪でできた坂で、距離を競い合うそりすべり大会、雪の上でも元気に走る雪上フラッグ、雪の中からおやつを探す宝探し、そのほかスノーモービルにも乗せてもらいました。冬季オリンピックにも負けないくらい白熱していました。暖かいココアを外で飲んで、ラーメン、たこやきも食べました。

今年の雪像は、パンダとつみきの形のすべり台です。雪像は「月形町役場職員労働組合青年女性部」の皆様が、お仕事のあとで夜遅くまで作ってくださいました。「札幌雪まつり」にも負けない出来栄えで、子どもたちもとても喜んで遊んでいました。

月形の冬は最高です。　　園長　豊田　揺子

一部リニューアルしました。

白石かがやき園

白石かがやき園が開設してから２０年が過ぎ一部老朽化が進んでいるところもありましたが、特に厨房と食堂とのカウンターが古くなり衛生面からも改善の余地があるという指摘を受け、２月に補修と塗装の工事を実施し、この機会に食堂の出窓のカウンターの板も張り替えました。

同時に職員室の床シートも一部剥がれたり汚れたり等進んでいましたので、全面張り替えをしました。　今回シートの色合いも明るい感じにしたので職員室全体が明るくなり、気分的にも清々しさを感じます。昨年の１２月には、利用者さんが使用するトイレを全てウォシュレットに交換しました。

それまでは、一部ウォシュレットにしていましたが、これからはどこのトイレを使用しても快適に使用できる事になります。

今後も生活をしていく中で利用者さんも職員も快適な環境で、良い活動が進められるようしっかりと点検をしながら活動に励んでいきたいと思います。　施設長　青木孝志

「正面玄関が自動ドアになりました」

札 北 荘

平成 29 年度札幌市民間社会福祉施設等整備費補助金を受けて、大規模修繕（防犯対策）事業を実施しました。昭和 61 年開園より、慣れ親しんできました正面玄関。黄緑色の枠で重厚感あふれる、まさしく札北荘の顔としての佇まいでした。しかし、時の経過とともに「施錠に時間がかかる（マスターキーを使用してグルッと鍵をひとまわし）」、「開け閉めにかかる負担、ドア自体が非常に重い」「防犯対策での要件（外部からの侵入が容易？）に不安がある」といった課題もありました。

昨年師走に山崎建設工業株式会社様のご協力を得て、全面ドアの更新が実現し（写真参照）新たな札北荘の顔がリニューアル致しました。ワンタッチ式の自動ドア、外の景色も一望でき北の街札幌の澄みきった空気感や光の透明感も、施設の内部から感じとれる完成度です。この事業にご尽力をいただきました関係各位に、心より感謝申し上げます。

札北荘施設長　真鍋陽一

Wakuwaku ナイト　春

札幌市社会自立センター

自立センターのお楽しみ行事の一つ「Wakuwaku ナイト　春」が始まりました。

先頭を切って第一弾が３月３日(土)元町図書館と澄川図書館の混在メンバーでボウリングとバイキング料理で楽しいひと時を過ごしました。少人数のグループでしたが、大いに盛り上がりました。

ボウリングでは、ストライクの連続とまではいきませんでしたが、スペアを取る際には、オリンピックのカーリングを思い出しながら、「ピンとピンの間に並ぶように狙ってね!」と言うとどこからともなく「そだね～」「そだねー」のそだねー星人がいっぱいいました。笑いのツボは「ド・ストライク」ってところでしょうか。その後のお楽しみバイキングでも笑いが絶えず、とても楽しい時間が流れました。食べすぎたのか、笑いすぎたのか、おなかを抱えて満腹・満足のワクワクナイト・春でした。

支援員　　清野　俊樹

さつきたそうにカラオケ機導入！

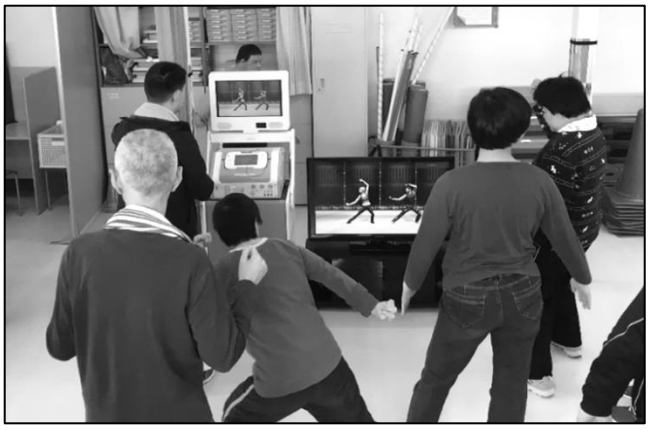
平成 29 年 12 月 14 日、さつきたそう（ゆめくる・ゆめきた）にそれぞれ１台ずつ、最新のカラオケ機が導入されました！

導入された日は、真新しい機械に利用者さんも職員も目を輝かせながらお出迎え！（笑）　以来、毎日、みんなに有効に利用されています。

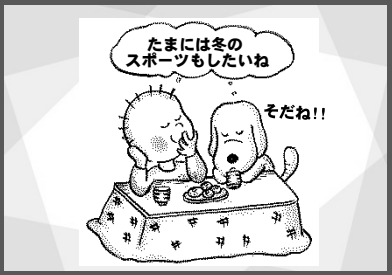
月２回のレクリエーションで使用されるのはもちろん、毎週金曜日の昼休みはカラオケ！毎日、帰宅前の待機時間もカラオケ♪を楽しんでいます！運動活動時にはアスレチックやダンスのソフトも入っている為、とても重宝しています。

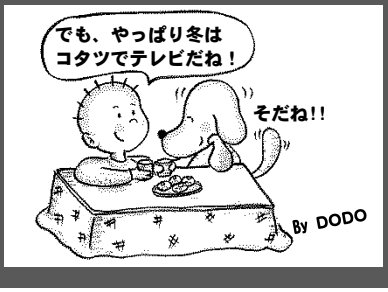
そうそう、昔話なんかも聞けるんですよ！（笑）

これから末永くみんなの楽しみを支える人気者になりそうです！　　支援員　吉野龍次郎



そだね!
（ある日の会話・・・）





編集後記

降り積もる雪・雪・また雪・・・

今年は数年に一度の爆弾低気圧がやってきた。３月を回り、もうすぐ春がそこまできているのに・・・

雪の少なかった札幌も一晩で 40～５０センチ積もり、パニック状態。幌加内の 3 メートル越えからすると話にならないぐらい少ないと言われますが、我が愛車の 4WD がついに腹をつかえて動かなくなってしまいました。高をくくってスコップなど一切積んでいなかった為、３名の職員の手を借り、救出してもらいました。その日の帰りは、真っすぐホーマックへ行き、携帯スコップを購入しました。

そこで、教訓。

みなさん! 備えあれば憂いなし!

（札幌市社会自立センター　佐藤典彦）